

横須賀新港に大型フェリー



2021年の春に横須賀新港と福岡県北九州市にある北九州港を結ぶ新たなフェリー航路の準備が進んでいます。この新航路は日曜日を除いた週6便を運航し、農産物、工業製品や宅配便などの貨物。旅客として600名程度の渡航者と乗用車を積載して、片道約20時間30分程度で結びます。

現在、新港には大きな埠頭は1つしかなく完成した輸出入の自動車の積み出し、冷凍マグロの荷役などが行われています。この現在の業務と新たなフェリーの入港がスムーズに、

問題、トラブルや事故が起きないように湾協会、運航会社、国土交通省、市などで調整が進められています。フェリーは16,000トン型の新造船になる予定で、海上輸送については物流業界のドライバーの不足や環境問題などもあり、ニーズも高まりを見せています。また、工業地帯として発展をしている北九州と都心部を結ぶ拠点として、横須賀は利便性の高い場所として着目されたことが今回の新航路の開設を検討するきっかけとなっています。

新港は横須賀中央駅から徒歩で10~15分程度で、のんびりとした旅を考える観光客の利用が期待されるところです。ダイヤについては、これからの調整の中で決まってくるようになりますが、安全性も含めたより良い検討を、意欲的に進めていくことが期待されます。

小動物火葬施設の運用変更には十分な説明と理解を

9月議会では、公郷町にあるペットなどを火葬・焼却する小動物火葬施設の運用を2020年3月末で廃止する方針が出されました。1962年に建設され、運用をするにあたって、平成18年に更新をしましたが「焼却炉の老朽化」「地元住民からの更新を望まない意見がある」などの理由からです。これまでに議会や委員会の中で「運用には期限がある」という議論は出ておりませんでした。

この火葬施設は平成18年の更新の際には令和3年までは運用が出来る見込みであり、その後の運用をどうするのか、公郷町の施設が使用不可能になった場合を想定した準備が不十分だったと言わざるを得ない状態の中で、余りにも唐突な結論を出されてしまったことは問題があります。

現在、横須賀市内には約2万3,000頭の犬を飼っているという登録があります。猫など他の小動物は登録制ではないので、それ以上のペットと暮らしている方がいる中で、しっかりとした説明や情報の提供。受益者負担についてどう考えるのか。ペットと暮らしている人の気持ちにどう寄り添っていくのか。市として丁寧な対応を積み重ねながら進んで行くことを望んでいます。



横須賀市をより魅力的なものにするため。地域に暮らす皆様が安心して生活することができるようにするために、お困り事やご相談など、お気軽にご相談下さい。お電話に出ることが出来ないこともあります。留守番電話にメッセージを残して頂ければ、ご連絡をさせていただきます。

【大野忠之事務所】

TEL: 046-838-6571 FAX: 046-838-6573

新ごみ処理施設「エコミル」3月本格稼働



2020年の1月から、ごみの分別方法が変わりました。老朽化の進んでいた南処理場が変わって、長年に建設をしていた新ごみ処理施設「エコミル」が完成し、2019年11月の試運転を経て、今年3月を予定している本格稼働を見据えての変更です。詳しいごみ出しのルールなどについては、横須賀市から冊子が各家庭に配布されているかと思えます。

エコミルはごみ焼却施設のない三浦市と共同で「ごみの処理を広域化して、財政の負担を減らし、自然環境への対策も

同時に取り組んでいく」ことも期待されています。処理施設稼働前に懸念されていた周辺の交通や排ガスについての周辺で暮らす市民への取り決めについては、収集車の搬入搬出の時間と経路、焼却により発生する排ガスの定期測定などを定めて、地元の町内会長にも出席をお願いして、協議会との間で調印を行いました。

久里浜にある南処理場については2月末で受け入れが停止になり、南処理場の余熱を利用していた「くりはま花の国」の温水プールについては、別の方法でプールの水を温め、引き続き温水プールとして利用して頂くことになっています。

市内各地の再開発計画が進んでいます



ベイスターズ2軍の拠点になっている追浜エリアでは国道357号線の延伸や駅前道路の拡幅、近くを流れる鷹取川の水路改修など複数の事業が動いています。それを地域全体として、将来像をどんな形にしていくのかデザインをするための予算が計上されました。

久里浜地域は横浜・F・マリノスの練習場の整備に

伴って、JR久里浜駅周辺の整備が進められていますが、「くりはまみんなの公園」の移転も行われることになっています。この公園は沢山の意見交換や議論を重ねて整備された公園なので、移転後の公園の機能、設備についても、地元、近隣住民の意見や議会での内容を最大限反映して「エントランス、遊びと子育て、自然ふれあい、バックヤード」の4つのエリアに分けて配置する案が出ています。

また横須賀中央の「三笠ビル地区」では再開発を検討する協議会があり、これを準備組合に改組しました。三笠ビルは昭和34年に出来て、60年を経過しています。横須賀市としても積極的な支援をして、より安全で魅力的な街づくりを応援していくことになっています。

汐入の旧ショッパーズは4月24日にオープン

リノベーションをして改装工事中だった汐入駅の「ショッパーズプラザ横須賀」は「Coaska Bayside Stores (コースカ ベイサイド ストアーズ)」として4月24日にオープンすることが決まりました。出店されるお店も徐々に発表されており、横須賀初出店のテナントも多く、100店を越えるショッピングとグルメ、エンターテインメントが出店し、映画館、ボウリング場も入ります。沢山の人がにぎわって、笑顔のあふれる場所になって欲しいと思っています。